

第2回 仁淀川流域治水協議会

議事録

1. 開催日時、参加機関 ※持ち回り開催

- ・ 9月9日（木）13:20～14:00（高知市）
- ・ 9月9日（木）14:30～15:00（いの町）
- ・ 9月9日（木）16:30～17:00（土佐市）
- ・ 9月14日（月）9:10～9:40（日高村）
- ・ 9月14日（月）10:10～10:40（佐川町）
- ・ 9月16日（水）16:30～17:00（仁淀川町）
- ・ 9月17日（木）16:00～16:30（越知町）

2. 議事

事務局より、当面の対策（案）、今後連携して取り組むべき対策（案）について説明。

各構成員より、当面の対策（案）、今後連携して取り組むべき対策（案）について賛同を得た。

（高知市）

- ・ 予測水位を実際に観測された水位データを用いて補正するなど、情報技術を最大限に活かして洪水予報を高度化することで、事前の避難の呼びかけができるようにならないか。
- ・ 砂防ダムに砂が貯まってきているため、砂防ダムの機能強化についても検討するべきである。

（土佐市）

- ・ 波介川、鎌田井筋周辺の浸水被害を軽減するための対策を流域治水協議会の検討事項に盛り込むべきである。
- ・ 建築規制という観点で、特に家屋倒壊等氾濫想定区域内の家屋を強化しようとする場合、補助金の制度がないと取組が進まないのではないか。

（いの町）

- ・ 町で管理している普通河川で治水対策を実施しようとした場合、準用河川に指定することで治水対策を実施するための交付金をもらえるが、河川全体の計画を作ることが必要となる。いつも水害になる地区だけでも、局所的に交付金を充当することはできないか。

（仁淀川町）

- ・ 県管理区間の避難のあり方について、高知県河川課が主催している「豪雨に強い地域づくり推進会議」などを通じて検討してみてはどうか。
- ・ 上下流交流という点では、仁淀ブルー観光協議会が仁淀川の地域交流イベントを開催している。また、ダムによる治水の効果を下流の住民に分かってもらいたい。
- ・ 土砂災害に伴う河道閉塞対策について検討するべきである。

(佐川町)

- ・避難や排水の観点から支川の治水対策を強化しようとする論理はよく理解できる。
- ・上下流交流という点では、漁協が子どもを対象に大渡ダムへのバスツアーを開催したり、仁淀川流域 7 市町村で構成されている仁淀川流域交流会議を通じて、源流の保全活動を実施したりしている。

(越知町)

- ・仁淀川本川や支川である柳瀬川の増水により、周辺地区が浸水するという課題があるため、避難のために幹線道路が浸水しないようにすることはできないか。
- ・建築規制という点では、駐車場や学校プール等を平成 17 年 9 月洪水時の浸水深以上に持っていくようにしている。個人宅でも 1 階を鉄筋コンクリートにしてピロティにしている事例がある。
- ・以前は警報なしには災害対策本部を立ち上げなかったが、台風第 10 号では早めに立ち上げるようにし、事前に避難を呼びかけるようにしている。

(日高村)

- ・総合治水条例に対して、国や県に技術的助言をお願いしたい。
- ・住民からは神母樋門周辺の安全性を常に問われており、本川の治水対策の強化を検討すべきである。